

佳作 (一般の部)

「大好きな絵本と息子の成長」

子籠 智恵子

柳田邦男先生

こんにちは。先生にお手紙を書ける機会を頂き、緊張しつつも大変嬉しく思います。

今回、仕事帰りに南千住駅で「柳田邦男絵本大賞」のチラシを拝見し、我が家の絵本エピソードをお伝えしたくお手紙を書かせて頂きました。

一歳四ヶ月の息子。

お腹の中にいた時から絵本の読み聞かせをしてお

り、生後一ヶ月の時に図書館デビューをしました。絵本を選ぶ四歳のお姉ちゃんの様子を見ていたからか、自分の足でよちよち歩けるようになって、目の前にある本棚から絵本を引っ張り出して持ってくるようになりました。てくてく歩けるようになると、自分で絵本を選び、私に渡してくれるようになりました。

そんなある日、電車が大好きな息子が、自ら図書館で選び借りた絵本が「電車くるかな」。この絵本が大好きで、息子が自宅の本棚から持ってきては私の膝にドカッと座り、絵本を読む姿勢になります。私が「くるかなー、くるかなー。きた!!!」と派手に読んでいました。すると、四歳の娘が、あはは！と笑っていました。毎日読み続けていたら、最初は無表情だった息子が、ある日「ニコッ」と笑

ってくれました。

私は可愛い微笑みを見たくて、次の日もまた次の日も「きたー！！！」と派手に読んでいたら、とうとう「きゃははは！」と大笑いするようになりました。可愛い顔で振り向きながら笑ってくれました。そして、「あー」と言いながら、人差し指を立てて、もう一回読んでと伝えてくれます。

そんな日が約三週間経過したある日、いつものように、「くるかなーくるかなー」と読んでいたら、息子が小さな声で、しっかりと「きたー」と言ってくれました。あまりにもびっくりしたので、もう一回「くるかなーくるかなー」と読むと「きたー」と言ってくれました。私は大喜びで息子をぎゅっと抱きしめて「きたーって言えたねー！」とほめると、嬉しそうに微笑んでくれました。

後日、電車に乗る機会があり、ホームで「電車くるかなー？」と聞いてみたら、前方に見える電車を指さして、小さな声でしっかりと「きたー」と教えてくれました。四歳の娘が「きたーって言えたねー」と息子をほめて、頭を撫でてくれました。

今まで、あー、ママ、ンマしか話せなかった息子が、大好きな絵本を通じて、きたーという言葉と言えるようになりました。家族に驚き、喜び、感動、そして息子の成長を感じさせてくれる絵本でした。その大好きな絵本を、息子は枕元に持っていつて寝ています。きつといつか、寝言でも「きたー」と言ってくれる日がくるかなー？と心待ちにしています。そんな日が来たら、また柳田先生にお手紙でお伝えしますね。

私は柳田先生の、幼き日の感性、という言葉が大

切にしています。様々な絵本を通して、娘も息子も、感性豊かな深みのある人生を歩んでもらいたいです。

秋になり、朝晩涼しくなりました。体調をくずさないよう、お過ごし下さい。